

資1-1 環境基本計画の進捗点検 (1)

1 環境汚染防止のための施策

1 大気汚染の防止(環境目標1-1)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
常時監視局の再配置と測定項目の見直し	—	実施	検討	B	新常時監視体制の整備に向け、協議を進めている。	環境森林課
有害大気汚染物質濃度の環境基準達成率	100%	100%	100%	A		環境森林課
施策名				評価**	判断理由	課名
① 大気汚染状況調査				○	大気汚染常時監視システムを更新。常時監視局2局にて、二酸化硫黄など5項目について、常時監視を行っている。	環境森林課
② ダイオキシソ類等有害物質の調査				○	トリクロエチレン等19項目…12回/年、塩化メチル及びトルエン…4回/年、ダイオキシソ類…2回/年の測定を実施した。	環境森林課
③ 工場等の発生源調査				○	16事業場のばい煙発生源施設に対し立入調査を行い、8施設のばい煙測定を実施した。	環境森林課

2 水質汚濁の防止(環境目標1-2)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
環境基準(河川)を達成した地点の割合	81.0%	100%	76.2%	B	環境基準設定の5河川でのBODの結果	環境森林課
汚水処理人口普及率	91.5%	96.5%	94.3%	B	汚水処理施設を使用できる人口(供用人口):315,483人	下水道整備課
施策名				評価**	判断理由	課名
① 水質調査				○	市内を流れる河川のうち22河川42地点及び湖沼1地点にて水質調査を実施(環境基準点含む)。	環境森林課
② ダイオキシソ類調査				○	上記河川のうち4河川4地点にてダイオキシソ類調査を実施。	環境森林課
③ 汚水処理事業(公共下水、農業集落排水及びコミュニティ・プラソトの接続促進、浄化槽の普及)の推進				—	公共下水道事業の接続促進については、広報に掲載するとともに、令和2年度に新たに供用開始となった世帯に対し戸別訪問を実施し、補助制度や融資制度を案内し接続に向けて働きかけを行った。	環境森林課
③ 汚水処理事業(公共下水、農業集落排水及びコミュニティ・プラソトの接続促進、浄化槽の普及)の推進				○	城南住宅団地排水処理施設と荒砥北部地区農業集落排水処理施設の統合について、農村整備課にて検証業務を行い、両課で協議を進めた。	ごみ減量課
③ 汚水処理事業(公共下水、農業集落排水及びコミュニティ・プラソトの接続促進、浄化槽の普及)の推進				○	啓発内容及び方法について、費用対効果を最大限に上がる手法を検討し、集排区域の自治会に対して、下水道の接続依頼や下水道の使用喚起を訴える内容で、広報まえばしの配布に合わせ毎戸配布を行った。	農村整備課
③ 汚水処理事業(公共下水、農業集落排水及びコミュニティ・プラソトの接続促進、浄化槽の普及)の推進				○	公共下水道事業の接続促進については、広報に掲載するとともに、令和2年度に新たに供用開始となった世帯に対し戸別訪問を実施し、補助制度や融資制度を案内し接続に向けて働きかけを行った。	下水道整備課
④ 合流式下水道の改善				○	合流改善事業については、平成26年度末までに整備を完了し、平成27年度、28年度の2か年で事後評価を実施した。	下水道整備課
⑤ 畜産公害防止対策の推進				○	耕畜連携による家畜排せつ物の堆肥化とその利用の促進を図った。	農政課

*行動指標の評価:「A」=「達成」、「B」=「順調」、「C」=「やや不調」、「D」=「不調」

**施策の評価:「O」=「計画通りに進んだ」、「△」=「計画より遅れている」、「-」=「未実施」、「×」=「中止した」

資1-1 環境基本計画の進捗点検 (2)

3 騒音・振動の防止(環境目標1-3)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
騒音(一般地域)の環境基準を達成した地点の割合	100%	100%	100%	A		環境森林課
施策名				評価**	判断理由	課名
① 騒音調査				○	一般地域、道路に面する地域の測定及び自動車騒音評価システムでの面的評価を実施。	環境森林課
② 事業場等の発生源対策の推進				○	苦情発生源を中心に立入調査を実施し、騒音発生状況の把握に努めた。また、必要に応じ防音対策の助言を行った。	環境森林課
③ 建築工事の騒音対策の推進				○	前橋中高層建築物に関する指導要綱に基づき、適切に指導を行った。	建築指導課

4 悪臭の防止(環境目標1-4)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
悪臭の公害苦情件数(年間)	17件 (H24~28平均)	8件	22件	B		環境森林課
施策名				評価**	判断理由	課名
① 悪臭発生源事業場に対する監視・指導の徹底				○	継続監視している事業場の臭気測定を実施。測定結果を基に、文書による指導を行った。	環境森林課
② 悪臭防止の取組支援や普及啓発				○	関係課と連携して悪臭発生源を調査し、事業者に管理方法について指導した。	環境森林課
③ 悪臭防止の取組支援や普及啓発				○	消臭剤等の購入に対して一部助成を行い、畜産農家の悪臭対策を支援するとともに、広報等を通じ適切な堆肥の管理等について普及啓発を行った。	農政課

5 土壌汚染・地盤沈下・化学物質による汚染の防止(環境目標1-5)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
地下水質(概況調査)の環境基準を達成した地点の割合	100%	100%	85%	B	13箇所を年1回調査	環境森林課
施策名				評価**	判断理由	課名
① 地下水質調査				○	概況調査は13箇所を年1回、モニタリング調査は、6箇所を年2回、5箇所を年1回実施。	環境森林課
② ダイオキシン類調査				○	地下水概況調査と同時実施で2井戸について実施。土壌のダイオキシン類調査を1地点で実施。	環境森林課
③ 農薬・化学肥料等の適正使用推進				○	農薬の適正使用、適正管理のため、廃農薬の処理費用の一部補助事業を行い、廃農薬の適正処理を推進した。	農政課
④ 地盤沈下防止のための地下水保全				○	地下水取水については、適性取水能力とされている各地下水水源の取水能力の7割を目安に取水した。	浄水課

*行動指標の評価：「A」＝「達成」、「B」＝「順調」、「C」＝「やや不調」、「D」＝「不調」

**施策の評価：「○」＝「計画通りに進んだ」、「△」＝「計画より遅れている」、「－」＝「未実施」、「×」＝「中止した」

資1-1 環境基本計画の進捗点検 (3)

施策名	評価**	判断理由	課名
⑤ 特定事業場等の発生源対策	○	土壌汚染を未然に防ぐように水質汚濁防止法の規制の範囲内で指導を行っている。	環境森林課
⑥ 有害物質問題発生時の情報収集と対応	○	庁内関係部署との連絡体制の確保を図っている。	環境森林課
⑥ 有害物質問題発生時の情報収集と対応	○	他部署及び他官庁と情報交換を密にし、法令に則り対応している。	廃棄物対策課
⑥ 有害物質問題発生時の情報収集と対応	○	建築基準法関係法令に基づき対応している。	建築指導課

6 都市の高温化への適応策の推進(環境目標1-6)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
熱中症で搬送される患者数(夏季期間)	135人	100人以下	189人	B		環境森林課

施策名	評価**	判断理由	課名
① クールシェアの推進	—	新型コロナウイルス感染症対策のため実施を呼びかけないという県からの通知により未実施	環境森林課
② 透水性舗装の促進	○	道路整備事業5路線において延長1,028m透水性舗装を実施。	道路建設課
② 透水性舗装の促進	○	南橋第七団地跡地整備事業、歩道整備において、延長179mを透水性舗装で実施。	建築住宅課
③ 熱中症予防対策の普及啓発	○	「広報まえばし」や市ホームページ、Facebook、Twitter、ラジオ等を活用した他、自治会、民生委員、保健推進員等の地区組織を通して広く市民へ熱中症の注意喚起を行った。また、全庁掲示板を通じ各所属による関係団体等への注意喚起を依頼したほか、中学校やスポーツ協会加盟団体へのちらし配布を行った。さらに今年度は『熱中症警戒アラート』に関する情報提供やアラート発令時の注意喚起を全庁掲示板やFacebookへの掲載にて実施した。	健康増進課

2 生態系の保護のための施策

1 生物種の保全(環境目標2-1)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
野鳥観察会にて観察することのできる野鳥の数	34種 (H24～28平均)	35種	33種	B	令和3年2月21日に実施し、40名の参加者があり、33種の野鳥を確認した。	環境森林課
野鳥観察会、自然観察会の参加者数 (年間)	82人 (H27)	90人	40人	C	野鳥観察会を自然環境調査業務で実施する自然観察会と兼ねて実施し、新型コロナウイルス感染症対策により、募集人数を縮小したため。	環境森林課

*行動指標の評価：「A」＝「達成」、「B」＝「順調」、「C」＝「やや不調」、「D」＝「不調」

**施策の評価：「○」＝「計画通りに進んだ」、「△」＝「計画より遅れている」、「—」＝「未実施」、「×」＝「中止した」

資1-1 環境基本計画の進捗点検（4）

施策名	評価**	判断理由	課名
① 生態系保全のための自然環境調査	—	自然環境調査の実施方法を見直し、令和2年度は未実施。次回は令和4年度に実施。	環境森林課
② 自然観察会の開催	○	野鳥観察会を自然観察会と兼ねて実施した。	環境森林課
③ 自然環境保全推進委員会の開催	○	委員会を1回開催し、生態系関連の事業等について助言をいただいた。	環境森林課
④ いきものの生育・生息環境の保全と情報発信	○	市内に生息する生き物を市民に知ってもらうため、自然環境調査の報告書概要版の配布や、市ホームページ「いきものギャラリー」等での情報発信を行った。	環境森林課
⑤ 外来種の侵入、拡大の抑制	○	研修への参加等による情報収集や、ホームページやチラシによる市民への周知を行った。また、通報のあった外来種の防除や現地確認を行った。	環境森林課

4 地球環境の保全のための施策

1 地球温暖化対策等の推進(環境目標4-1)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
市域全体の温室効果ガス(CO2)排出量(年間)	2,954千t (H25)	1,964千t (R5)	2,196千t (H30)	B	算定に用いるデータの収集の関係上、最新の数値は当該年度の2年遅れで算出される。	環境森林課
市域全体のエネルギー消費量(TJ) (年間)	26,935TJ (H25)	22,991TJ (R5)	22,059TJ (H30)	A	算定に用いるデータの収集の関係上、最新の数値は当該年度の2年遅れで算出される。	環境森林課

施策名	評価**	判断理由	課名
① 省エネルギー・省資源行動に関する普及・啓発	○	まえばし環境家族や環境問題基礎講座の実施、地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE(クールチョイス)」に関する啓発活動を行った。	環境森林課
② 建築物省エネ法に基づく届出等	○	建築物省エネ法に基づく届出を受理し、適切に指導を行った。	建築指導課
③ グリーン購入の普及・拡大	○	令和2年度の達成率は96.4%となり、昨年度比で1.5%上昇した。	環境森林課
④ 地球温暖化防止実行計画の推進	○	令和2年度までに平成21年度(基準年)と比較して22%削減する目標となっており、0.5%削減した。	環境森林課
⑤ 交通由来の温室効果ガスの削減	○	電気自動車の普及に向け、市が設置し一般開放している急速充電器4基、普通充電器5基について、適切な運用管理を実施している。	環境森林課
⑤ 交通由来の温室効果ガスの削減	○	自動運転やデマンド交通の実証実験と併せて、MaaS環境の構築実験を実施し、将来を見据えた公共交通体系構築のための利便性向上策と利用促進を図ったため。	交通政策課
⑤ 交通由来の温室効果ガスの削減	○	自転車ネットワーク計画に位置付けた00-128号線について自転車通行空間整備の実施。延長425m。	道路建設課
⑥ 酸性雨モニタリング調査	○	年17回の調査を実施した。	環境森林課
⑦ フロン回収事業	○	家電リサイクル対象製品以外の製品に含まれるフロンガスについては、使用済小型家電として、無害化処理を実施した。	ごみ減量課
⑧ 森林の整備保全	○	松くい虫防除のため樹幹注入、伐倒駆除等を実施し、森林の保全整備に努めた。また生活環境保全林の下草刈りを実施した。	環境森林課

*行動指標の評価：「A」＝「達成」、「B」＝「順調」、「C」＝「やや不調」、「D」＝「不調」

**施策の評価：「○」＝「計画通りに進んだ」、「△」＝「計画より遅れている」、「－」＝「未実施」、「×」＝「中止した」

資1-1 環境基本計画の進捗点検 (5)

2 新エネルギーの導入促進(環境目標4-2)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
新エネルギーによる発電能力量(累計)	192,299kW	307,501kW (R2)	329,497kW	A	新エネアクションプランで掲げていたR2の目標値は達成できた。 R3以降は「前橋市地球温暖化防止実行計画2021-2030」の基本施策1で掲げた目標値達成に向けて引き続き導入促進に取り組んでいく。	環境森林課
施策名				評価**	判断理由	課名
① 太陽光発電等の新エネルギーシステムの導入支援				○	太陽熱利用温水器、燃料電池コージェネレーション、HEMS、定置用リチウムイオン蓄電池を購入・設置した市民に対して、費用の一部を助成した。	環境森林課
① 太陽光発電等の新エネルギーシステムの導入支援				○	市再エネ条例に基づき、39件の事業(すべて太陽光発電設備)について許可をした。	都市計画課
② 公共施設の省エネルギー、自然エネルギーの導入				—	公共施設の建設・改修時には導入が効果的と思われる施設を選定し、当該施設における新エネルギーの導入の可能性について検討していく。	環境森林課
② 公共施設の省エネルギー、自然エネルギーの導入				—	未実施	建築住宅課
② 公共施設の省エネルギー、自然エネルギーの導入				—	太陽光発電システム等の設置工事は実施しなかった。	教育施設課
③ 太陽光発電事業の継続				○	順調な発電を継続している。	環境森林課
④ 小水力発電の維持整備				○	赤城山小水力発電所については、職員による現地確認や保安管理業務の外部委託により、安定した発電ができるよう適切な施設運営に努めている。	環境森林課
施策名				評価**	判断理由	課名
⑤ バイオマスエネルギーの利用促進				—	バイオマスエネルギーの利用促進に向けて事業者と情報共有を図った。	環境森林課
⑤ バイオマスエネルギーの利用促進				—	未実施	農政課
⑥ 森林資源を活かした地球温暖化対策の推進				○	木質燃料ストーブ購入事業を実施し、森林資源の活用促進による地球温暖化対策の推進を図った。	環境森林課

3 ごみ減量・資源化(3R活動)の促進(環境目標4-3)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
1人1日当たりのごみ総排出量	950g	825g (R7)	924g	C	1人1日当たりのごみ総排出量は、やや増加している。 (令和元年度は、918g)	ごみ減量課
再生利用率	19.8%	25% (R7)	19.0%	C	再生利用率(資源化率)は、昨年度比でやや減少している。(令和元年度は、19.9%)	ごみ減量課

*行動指標の評価：「A」＝「達成」、「B」＝「順調」、「C」＝「やや不調」、「D」＝「不調」

**施策の評価：「○」＝「計画通りに進んだ」、「△」＝「計画より遅れている」、「—」＝「未実施」、「×」＝「中止した」

資1-1 環境基本計画の進捗点検 (6)

施策名	評価**	判断理由	課名
① 市民意識の醸成と啓発	○	さらなるごみの減量を目的に開始した第2次G活チャレンジ!「ステキにごみダイエット」を推進するとともに、イベントなどの施策を通じて、ごみの発生抑制に努めた。	ごみ減量課
② 排出段階での減量・資源化の促進	○	生ごみの水切りやマイバッグ・マイボトルなど、繰り返し使えるものを推奨し、電動式生ごみ処理機等の補助を行うなど、ごみの発生抑制と再資源化を図った。	ごみ減量課
③ 建設廃棄物の資源化	○	建設リサイクル法に基づく届出を受理し、適切に指導を行った。	建築指導課
④ 事業系ごみの減量・資源化	○	事業系ごみの適正排出指導やリサイクル庫の活用により、ごみ減量や資源化に取り組んだ。	ごみ減量課
⑤ 除籍図書の再活用	○	除籍した図書を①年間を通じ図書館東口でリサイクル図書として希望者に配布②社会福祉施設等や児童クラブに提供(2,702冊:31施設)③ふれあい図書館まつりのブックリサイクルで配布(2,500冊)④随時、分館内リサイクルコーナーで利用者へ提供するなど資源の有効活用を図った。⑤家庭で不要になった本を図書館へ持参してもらい、読みたい人へ配布(13施設:773冊)。⑥自主避難所や市民サービスセンターで避難所開設の際や平常時においても有効活用をしてもらうため配布(15施設:490冊)。	図書館

4 廃棄物の適正処理と処理施設の整備(環境目標4-4)

行動指標	基準値(H28)	目標値(R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
不法投案件数(年間)	19件	10件	25件	C	目標値を上回っているが、不法投棄防止のための施策や関係機関との連携により、新規発生した事案はほぼ解決している。	廃棄物対策課

施策名	評価**	判断理由	課名
① ごみ処理施設の維持整備	○	延命化工事が完了した六供清掃工場及び各清掃工場の維持整備を適切に行った。	清掃施設課
② 焼却灰の資源化	○	焼却灰(主灰・飛灰)の焼成処理処分(人工砂)を委託し、資源化を図った。	清掃施設課
③ 処理困難物の適正処理	○	本市清掃工場において、処理困難な危険ごみ(乾電池、蛍光管、スプレー缶など)を適正に処理することができる業者に委託した。	清掃施設課
③ 処理困難物の適正処理	○	処理困難物(タイヤ、消火器等)について、適正に処理を行った。	ごみ減量課
④ 新最終処分場の整備推進	○	令和4年度までの予定で、施設整備に関する基本計画の策定作業を進めた。	清掃施設整備室
⑤ 廃棄物の不法投棄等の防止	○	開庁日は毎日職員等によるパトロールを実施し、開庁日には民間警備会社にパトロールを業務委託するとともに、監視カメラを設置し不法投棄等の監視を継続的に行った。	廃棄物対策課

*行動指標の評価:「A」=「達成」、「B」=「順調」、「C」=「やや不調」、「D」=「不調」

**施策の評価:「○」=「計画通りに進んだ」、「△」=「計画より遅れている」、「-」=「未実施」、「×」=「中止した」

資1-1 環境基本計画の進捗点検 (7)

5 環境保全活動の活性化のための施策

1 環境情報の整備と提供(環境目標5-1)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
環境ポータルサイトアクセス数(年間)	841件	2,000件	-	-	ホームページのリニューアルに伴い、集計ができなくなったため。	環境森林課
施策名				評価**	判断理由	課名
① 広報紙、パンフレット等による普及・啓発				○	パネル展など各種イベントを実施し、リーフレット等を配布した。	環境森林課
② 環境報告書の発行				○	年次報告書「まえばしのかんきょう」を発行した。また市ホームページに掲載することにより、環境情報の公開に努めている。	環境森林課
③ 情報システムを活用した環境情報の提供				○	月1～2回「COOL CHOICE JOURNAL」を発行する等、定期的な情報発信に努めた。	環境森林課
④ 各種メディアの活用				○	隔月で市政ラジオ番組の放送を行い、環境にやさしい生活の実践について情報を発信し「COOL CHOICE」の普及促進に努めた。	環境森林課

2 環境教育・環境学習の推進(環境目標5-2)

行動指標	基準値 (H28)	目標値 (R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
環境教室・イベント等の実施回数(年間)	91回	100回	12回	D	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの開催が一部中止となり、実施回数が大幅に減少した。	環境森林課 ごみ減量課
施策名				評価**	判断理由	課名
①環境保全啓発イベントの開催				○	環境月間でのパネル展を実施した。	環境森林課
①環境保全啓発イベントの開催				—	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催ができなかった。	ごみ減量課
② 出前講座や施設見学会の実施				—	未実施	環境森林課
② 出前講座や施設見学会の実施				—	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催ができなかった。	ごみ減量課
② 出前講座や施設見学会の実施				○	コロナ対策をとりながら、市内小学校4年生を中心に施設見学を実施した。	清掃施設課
③ 環境教育推進者の育成				○	環境教育主任研修会は中止した。教頭会議で各学校の取組などを共有することで、環境主任の資質向上や取組内容の見直し・改善を図った。	学校教育課
③ 環境教育推進者の育成				○	コロナ禍で、学校教育課と連携する環境教育主任会、教職員を対象とする林間学校(自然体験活動)指導者講習会は開催できなかったが、自然体験活動の進め方や教育課程への位置づけなどを共有することで、教職員の資質向上や意識の醸成に取り組んだ。	青少年課

*行動指標の評価：「A」＝「達成」、「B」＝「順調」、「C」＝「やや不調」、「D」＝「不調」

**施策の評価：「○」＝「計画通りに進んだ」、「△」＝「計画より遅れている」、「—」＝「未実施」、「×」＝「中止した」

資1-1 環境基本計画の進捗点検 (8)

施策名	評価**	判断理由	課名
④ 学校における環境教育の推進	○	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、環境教育の取組については各校の実態に応じ、可能な範囲で取り組んだ。	学校教育課
④ 学校における環境教育の推進	○	新型コロナウイルス感染防止の観点から、5年生対象の環境教室の実施を希望した学校について、児童文化センター職員が学校に出向き、出前講座を実施した。学校の空気を調べ、身近な環境に目を向けることで、世界の環境を考えるきっかけになった。	青少年課
⑤ 学校における自然体験活動の推進	○	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、自然体験活動については各校の実態に応じ、可能な範囲で取り組んだ。	学校教育課
⑤ 学校における自然体験活動の推進	○	新型コロナウイルス感染拡大の影響で泊をとまう林間学校は実施できなかったが、日帰りの「一日自然体験活動」を夏以降に実施したことで、児童生徒に自然と触れ合う貴重な体験を提供することができた。	青少年課
⑥ 児童文化センターにおける環境教室の実施	○	新型コロナウイルス感染症予防対策のため、小学校5年生を対象に希望のある学校のみ児童文化センターで実施している環境教室に取り組み環境への興味関心を高めることができた。	学校教育課
⑥ 児童文化センターにおける環境教室の実施	○	コロナ禍で5年生対象の環境教室は例年通り実施できなかったが、児童文化センター主催の「環境冒険隊」「こども公園環境教室」などのプログラムを実施し、子どもたちが自然に親しむ機会を保障するとともに、子どもたちの環境保全意識を高めることができた。	青少年課
⑦ 総合的な自然環境プログラムの実施	○	サクラ・ツバメ・セミをテーマに市民自然環境調査を実施した。また、野鳥観察会やまえばし環境の学び舎事業を実施した。	環境森林課

3 環境保全活動の活性化(環境目標5-3)

行動指標	基準値(H28)	目標値(R9)	R2年度数値	評価*	備考	課名
こどもエコクラブの会員数	829人	880人	773人	C	クラブ数は10クラブ(令和元年度)から8クラブ(令和2年度)に減少した。各クラブの会員数も減少傾向にある。	環境森林課
まえばし環境家族の参加世帯数	1,686家族	2,500家族	2,312家族	A	昨年度より357人増加した。	環境森林課

施策名	評価**	判断理由	課名
① こどもエコクラブの活動推進	○	登録クラブへの継続届の案内や、広報による新規クラブの募集を行った。また、群馬県こどもエコクラブの学習会や交流会の後援を行った。	環境森林課
② まえばし環境家族の参加促進	○	参加しやすいように取組用紙や記念品を工夫した。市内各小学校児童へ配布し、学校教育課と連携して周知を図った。	環境森林課
③ 環境美化活動の推進	○	自治会、環境美化推進員等との連携を図り、清潔で住みよい街づくりを進めた。	ごみ減量課
④ 環境保全活動団体への支援	○	地域づくり推進事業として、地域の環境保全を行う団体に助成を行った。	生活課
⑤ 産・学・官の連携の促進への支援	○	令和2年度新製品・新技術開発補助事業において廃液処理方法及び装置原理の実用化を図る新製品の開発の支援を行った。	産業政策課

*行動指標の評価：「A」＝「達成」、「B」＝「順調」、「C」＝「やや不調」、「D」＝「不調」

**施策の評価：「○」＝「計画通りに進んだ」、「△」＝「計画より遅れている」、「－」＝「未実施」、「×」＝「中止した」